

QI ニュース Vol.7

平成 27 年 3 月 30 日発行

発行責任者 川原 順子

Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator

皆さん、こんにちは。薬の安全な使用は、医療の質と医療安全で最重要領域の一つです。

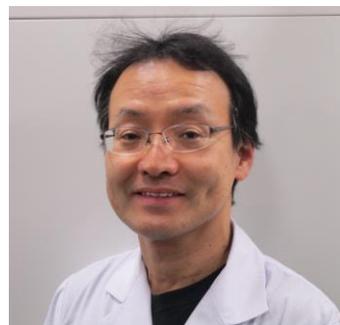
今回は、薬剤部部長の蛭谷先生から、薬の情報管理の取り組みについて、ご紹介いただきます。

ブラックボックスの蓋をひらく



薬剤部長 蛭谷一彦先生

-----薬の情報管理について-----



『中身が見えない、分らない』ことを比喩的に『ブラックボックス』といいます。

薬はまさにブラックボックスです。「ここに白い錠剤の入った瓶があります。

どうぞお飲み下さい」とだけ言われたら、それを飲みますか？

たぶん、飲まないでしょう。それでは、クッキーの入った瓶を出され、

「どうぞお食べ下さい」と言われたらどうですか？おいしそうなクッキーなら食べるでしょう。

どうしたら薬を飲んで貰えるでしょうか。どんな薬効でどのくらいの用量なのかといった情報が必要です。用法・副作用の情報があれば心配なく服用できます。情報の無い薬は無用の長物です。薬にとって情報はいかに大切なものであるか分かって頂けたと思います。

薬剤の安全な使用を支える薬剤情報管理について、薬剤部の取り組みについてご紹介いたします。

1. 医薬品情報室・DI(Drug Information)室

薬の投与量、投与方法、相互作用、副作用などの情報を収集・整理、提供するとともに、問い合わせに応じえています。重大な副作用や死亡事例が出た場合に出された「緊急安全性情報」は、直ちに電子カルテに掲載しています。「DI ニュース」を定期的に発行し、薬剤情報を提供しています。これらの情報は、バックナンバーも含め電子カルテで閲覧できます。

電子カルテの「薬：MDView」には、最新の医薬品情報を適時更新しています。医薬品の検索もできますので、大変便利です。

(登録方法*ナビゲーションマップから入り、
→部門→薬剤→「薬：MDView」(お気に入り追加))



2. 副作用等情報の収集・報告

薬の重大な副作用を発見した場合、主治医と医薬品情報室の薬剤師が協力して情報を収集・解析し、「医薬品安全性情報報告書」として厚生労働省に報告をしています。その内容は院内の薬事専門委員会でも紹介して、情報を共有します。全国から集積された厚生労働省の情報は、医療施設にフィードバックされます。医薬品情報室では、その情報をD I ニュースで医療スタッフに提供します。

3. TDM(Therapeutic Drug Monitoring)・治療薬物モニタリング

薬効の維持、中毒・副作用の防止・早期発見のために、薬物血中濃度を測定し、個々の患者に適した薬物療法の設計を行っています。バンコマイシンやテイコプラニンなどの抗 MRSA 薬は、年齢や腎機能の程度によって、血中濃度が大きく変動します。血中濃度が治療域に届かない場合、期待される薬効が得られません。異常高値となれば、有害事象を起こしてしまいます。病棟薬剤師は主治医に血中濃度のデータ解析をもとに投与量を提案します。各薬剤師が行っている TDM が問題ないか、感染制御認定薬剤師が監修しています。

4. 持参薬管理業務

手術や入院中の投薬の安全性の向上のため、「持参薬管理室」を設置しています。患者さんの持参薬や服用中の健康食品を入院の前にチェックして、相互作用、重複投与の有無やアドヒアランスなど確認します。その情報は病棟担当薬剤師に引き継がれ、安全・安心の医療に貢献しています。

ここに紹介した内容は、薬剤師業務のほんの一部にすぎません。今回は紹介できませんでしたが、がん薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士の資格を有する薬剤師や、妊婦授乳婦薬物療法認定薬剤師など、延べ 34 の資格を持つ当院の薬剤師は、その専門性を生かして安全・安心の医療に取り組んでいます。

私たち薬剤師は、薬というブラックボックスの蓋を開け、患者さんや医療スタッフに中身をよく見えるようにしていきたいと思っています。

